

第50号

発行：令和2年12月

会員数：206名（11月末現在）

（家族会員=20名、個人会員=186名）

発行責任者：飯田 秀

編集責任者：出口 孝次

松浦武四郎記念館友の会

友の会だより

友の会事務局：

松阪市小野江町383

松浦武四郎記念館内



「友の会」のHPは、松阪市HPの中にあります。

<http://www.city.matsusaka.mie.jp/site/takesiro/tomonokai.html>

（松阪市で検索してね）

「旅人、松浦武四郎に思う」

役員 粉川 哲夫

松浦武四郎記念館主催の講座には、当初から参加しています。

小、中、高校までこの地で育ち、その後40余年間は、転勤族で名古屋、高松、東京勤務し、定年退職で故郷に定住しています。（実家は五主町）

小野江のことで最初に浮かんだことは、若かりし14～15歳ころの思い出です。

中学校（雲南中）の時にクラブ活動（野球部）が終わってから、小野江の伊勢街道に面した食堂で「うどん」を食べたなつかしい記憶があります。（現在は？）

ところで、本会に参加してから10余年になります。毎月の武四郎講座、毎年の研修旅行で、それぞれ分かりやすく、丁寧なお話を頂き、知識を吸収できました。松浦武四郎は17歳から全国を巡る旅に出ています。28歳から6回の蝦夷地探査、天満宮へ神鏡奉納、68歳から3回の大台ヶ原探査、70歳で富士登山。その間「紀行日誌」の出版等々、後世に記録として留めています。

明治維新という時代背景があるとはいえ、これだけの行動力は、並大抵な事では出来ないと思う、武四郎の強い意志と身体能力（健脚）も併せて持ちあわせていたことが可能にしたと思います。

旅をする中から人との出会い、発見、新しい情報が入る、それらを信じて、超人的な行動に結びついたように思う。



友の会主催武四郎講座「川喜田石水と武四郎」を聴講して

会員 藤田 美代子

新型コロナウイルス感染症禍の中で巣ごもり生活をしていましたが、徐々に開講ということで嬉野図書館に車を走らせました。

聴講していると、私の眠っていた頭の中に講師の先生の声がとても新鮮に入ってきました。

今までは、なんとなく石水は武四郎のパトロンなのかとしか思っておらず、石水と武四郎の関係について、講座の内容は、恥ずかしながら初めて知ることでした。

生まれも育った環境も異なった二人の関係が、互いに刺激を受けあっていたのでしょうか。石水の持つすべてを吸収したことが成長した武四郎が北海道探査をするという大事業に結びついたのかもしれないと、私なりの解釈をしました。

私は、武四郎学には今まであまり深く関わっておらず、友の会会長の飯田様にお誘いを受け、時々聴講するだけでした。講座を聴講して、武四郎学の奥の深さに、今更ながら感動していま



講演いただいた石水博物館学芸員の桐田貴史さん

す。お礼申し上げます。

川喜田石水は武四郎に何を期待したのか、武四郎は石水に何を期待したのか、自分なりに考えてみたいと思うと同時に、機会があれば「三雲町史」第三巻資料編の書簡も読むという宿題を頂いたようにも感じます。好奇心を持つことが私のモットーです。また、新しく頭の体操をと考えています。

本年、石水博物館の学芸員をお呼びすることが出来、記念館としても初めてのこととなった為、喜んでいただきました。

武四郎講座（令和2年9月13日）「川喜田石水と武四郎～江戸時代末期を中心に～」と題して、石水博物館学芸員桐田貴史さんが詳しく話してくださいました。足代弘訓との関係から、大人になった石水が武四郎と再会をしたのではないかとと思われるとのこと。また、伊勢国の情報と江戸、東京の情報をやりとりし、石水の父が収集した図書を把握し、江戸でも手にはいらぬのがあり、大切だから貸し出しをしないようにと伝えたということでした。貴重なお話をありがとうございました。

コロナ禍の中、今年唯一の研修旅行を実施しました！

去る9月26日（土曜日）に県内なら大丈夫という判断で、バスツアーを実施しました。行き先は、かねてから訪れてみたかった飯南・飯高。そこは、明治13年に大峯奥駈けのため松浦武四郎が伊勢から吉野に向かう時に通った道で、和歌山別街道から和歌山街道に入り、高見峠にむかう舟戸までを巡る旅でした。

コロナ禍ということで、三密を避けるため、バスの乗車人数も制限し、マスク着用、検温、アルコール消毒など、みんなで協力し合いながらの旅でしたが、無事帰ることが出来ました。



田中屋資料館前で記念撮影

『武四郎の足跡を訪ねるバスツアー飯南・飯高』に参加して

会員 倉田 進

昨日の降雨も嘘のように晴れ、さえ先よいスタートとなった。

私にとって今回の訪問は、以前に訪れた場所の訪問も懐かしく感慨にふけると共に、新たに訪問した長野屋跡地や蘇我入鹿首塚等は特に興味があり、個人で訪れる以外、なかなか訪れる事が出来ない地で感動もひとしおの思いである。

ましてや松浦武四郎も吉野奥駈修験道へ参加の際にこの地を通ったと思うと、草むした街道も高見峠を越えて、このまま峠越えしてみたい衝動にかられた。私と同じそんな旅の魅力



粥見の道標付近で説明する高瀬元記念館館長

を、当時の武四郎も持っていた？と思うと、自分でも武四郎が益々身近に思え、機会ある毎に彼の『足跡をたどる』という目標を持つと思うと共に、今後の自己旅の指針にしたい。

1メートル 48センチ程の体躯のなかに、すごい体力・意思の強さと好奇心は、我々同世代の目標枯れの垣間見える現代人にとって、おおいに見習うべきだと、同行の会員の方々と見学地を訪れる度に話題にしてきました。

終始バスの車内は、中野前館長の訪問地の説明もさることながら、ウィットに富んだ巧みな話術は、乗車時間の長さを感じさせない、楽しいひと時と知識を我々に与えて頂き、ありがとうございました。

最後になりましたが、今回のバスツアーをプランニングして頂いた飯田会長をはじめ役員の方々、元記念館館長の高瀬英雄様のはからいで、武四郎が泊まった「舟戸の長野屋」の末裔の方に駆けつけて頂き、当時の看板を拝見ができ、ありがとうございました。お疲れさまでした。

訪問地の関係者との折衝及び下見については、コロナ期も相まって大変だったろうと思います。

また、地元の関係者の『おもてなしの心』は、コロナの巣籠り中の我々参加者にとって、爽やかさと共にとても印象に残る、思い出となった研修バスツアーでした。



長野屋の話をする末裔の永野さん



長野屋旅館に掛けてあった看板

松浦武四郎が歩いた和歌山街道を巡る 令和二年九月二十六日

短歌即詠二首 会員 鹿田 のぼる

ひたすらに吉野を目指す武四郎「旅籠・舟戸」の長野屋へ宿す

雨上がる舟戸の里の入鹿塚五輪の梵字伝説より成る

俳句二句 会員 川口 照代

行く秋の翁宿りし村は過疎

榎の実を拾ふ庚申塚の前



【 記念館よりお知らせ 】

☆記念館講座のご案内

- 12月13日(日)10:00～：テーマ：「武四郎と水戸藩」
講師：山本命主任学芸員
- 1月10日(日)10:00～：休講
- 2月14日(日)10:00～：休講
- 3月14日(日)10:00～：テーマ：「武四郎涅槃図の面白さ」
講師：山本命主任学芸員
- 4月11日(日)10:00～：テーマ：未定

☆展示のご案内

- 11月3日～令和3年1月11日「武四郎の集めたもの」
晩年に古物の収集を行い、収集家として活躍した武四郎が集めた様々なモノを紹介します。
- 1月13日～3月14日「武四郎涅槃図の世界」
画家の河鍋暁斎に約五年の歳月をかけて描かせた「武四郎涅槃図」について紹介します。
- 3月16日～5月初旬「武四郎と幕末維新」
幕末の志士たちや幕臣など多くの人物と交流する姿や、志士としても活躍する武四郎の姿を紹介します。

【友の会よりのお知らせ】

2021年2月に予定されていた武四郎まつりの中止

毎年、松浦武四郎の生まれ月であり死去した月でもある2月に行われてきた「武四郎まつり」ですが、今年度は、残念ながらコロナ禍の中、最も密になりやすいイベントでもあり、県外からもお客様がいらっしゃるため、準備段階から開催の可否を決定しなければならず、中止を早々と発表することになったそうです。



今後の予定

1月30日(土)「拓本の体験会」を初めて開催します。
場所：松浦武四郎記念館会議室（密にならないようにとのこと）
講師：四五百の森拓本会代表西村欣也さん、会員の方々
募集人員は、15人です。なるべく早くお申し込みください。

会員懇談会の延期

コロナ禍ということで、毎年、年末か年始には行ってきましたが、延期して年度末までにできないものか様子を見ようと考えています。

会費の納入について

新年度の年会費を、12月迄にとさせていただきますので、納入いただけない方は、退会されたものと致しました。退会をしない方は、役員又は記念館事務所へお問い合わせください。

次回の発行は、
4月の予定です。



※新型コロナウイルス(COVID-19)の感染は、本館について11月29日現在、844人の感染が確認されています。県外からの入館者もあることから、本記念館での多人数の会は自粛せざるを得なくなり、今後も嬉野図書館2階会議室での講座になります。1月、2月については、会場の都合がつかないため休講いたします。
※松浦武四郎記念館は、令和3年5月中旬から令和4年4月下旬まで、リニューアル工事のため、休館する予定です。詳しくは、次号にてお知らせします。

